

平成二十四年度

会報

貞香会

# 新しい一歩を



貞香会会長 赤平泰 処

第四十八回貞香書展も会員の皆様の温かいご支援・ご協力により無事終えることが出来ました。有り難うございました。来春草々に総合書展が一月十九日から東京都美術館で始まります。一層の力作を期待しております。しかし、本会に取りましては出品減が大変気がかりな点です。会員皆様の出品勧誘を是非お願いいたします。

今年には貞香会が一九二三年（大正十二年二月）に創立してから九十年という記念の年を迎えることが出来ました。継続してきたことの意義を確かめて、書道界の一隅の場を確保するだけでなく、新たな一歩を踏み出す意気込みと、活力が問われていると思います。

本会が六十年を迎えた昭和五十七年、素堂先生は、次のように会の年表に記しています。

『小規模な会でございますが、六十年間何とか経営してみ

ますと、実に多くの方々のお力添えをいただいたり、会員も不断の努力を積み重ねて今日に至りましたことが、しみじみ感じられます。半世紀余の会の歴史を一表にしてみますと、記憶の中でかすんだ部分も多く、資料の焼失が惜しまれたり、素堂個人の履歴と重なる部分もあって・・・』と感慨深く、会員の協力を切望しています。

あと十年で一世紀になり、再来年（二〇一五年）には、貞香書展が五十回の記念展を迎えます。当初の会則には美風習慣を宗とすること、入会申込書には、貴会の清規（しんぎ）により入会いたします。とあり、書道学習者としての人間性の大切さを高くうたっています。これは今も会員のあるべき姿だと思えます。素堂先生の描いた会のあり方はどんな形だったのでしょうか。先生はよく、大きな木にはすぐなれないよ、大地からの栄養と光を受けて、長い年月、同じ営みを繰り返す中で大きな木になるんだと話されました。求めるところは一つ、不断の努力の積み重ねです。

会員一人一人の個性が躍動し開花しているのが展覧会の魅力であり、貞香会の書の理想とするところです。飽くなき書への探求心を持って力強く継続して、第五十回の貞香書展を皆様と共に迎えたいと思っております。

# 理事長に就任して



理事長 中村 青 藍

貞香会の世代交代の早さは、代名詞のように言われています。どうも理事長の任期は三期六年が実質的な任期のようです。今年の三月の理事会に於きまして、私に理事長という大役が舞い降りて来ました。

浅学非才の私が博学多才の大先輩の先生方を前にして、果たして理事長という職務が務まるだろうか、大変悩みました。結果、ストレスの始まりです。血圧が急上昇、薬が離せなくなりしました。心は青天の霹靂だと叫んだまま、中村素堂先生の教えに頼るしかない状態となりました。

先生曰く「人生というものの確かに期限付きだ。それ故、一度の人生、生涯何をして一生を送っても良い。又これからの人生、やる気になればどんな道でも開けてくる。一つの目標を立てて眼を方々へそらさないように、一意専心に努力を重ねるほど強いものはない」という教えを思い出し、この大役を引き受けることにいたしました。

この度の改選に於きまして、荒木大樹前理事長は顧問に、

大野宜白前副理事と松本宜響前副理事長は、共に参与に推戴頂きました。

三期六年間に亘り御尽力賜り誠にありがとうございました。残された理事は、私を含め揃って若輩者ばかりになってしまいました。

本会の会員数は会友を含め二百十四名（六月三十日現在）を数えます。新役員心を合わせて、会の更なる発展のために尽くす覚悟です。関係の皆様方には今後とも一層のご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

さて本会、最大事業であります一月の貞香会総合書展、六月の貞香書展を如何に成功裡に終わらせるかにかかっています。

一月の2013貞香会総合書展は久しぶりに七〇四点の出品を頂きました。東京都美術館に戻った影響と書範展の企画が功を奏し、昨年比で二六六点増えました。一方の貞香書展は第四十五回展の三八八点をピークに減少傾向です。因みに第四十八回展は三〇七点でした。

第五十回の記念展まであと二年、間もなく半世紀です。又、今年には貞香会創立九十周年を迎えました。来年は素堂先生の三十三回忌を迎え、先生の年に入りました。素堂先生の恩に報いるため、会を挙げて、あつと言わせるような企画と演出を考えて行きましょう。

貞香会の二大展覧会に向かってご協力、ご出品をよろしくお願い申し上げます。

# '12 貞香会総合書展

第一部 会員展  
第二部 書範展

平成24年1月7日～9日

於北千住ミルディス シアター1010

東京都美術館改装工事のため、昨年に続き会場を移しての開催となった。出品は委嘱部6点、一般部142点、教育部167点の総数315点。昨年比63点の減となった。8日には授賞式と懇親会が館内アトリエで開かれ、懇親会には書道玄海社会長の三上栖蘭先生、毎日新聞社学芸員の桐山正寿氏、評論家の小野寺啓治氏が飛び入り参加し大いに盛りあがった。

来年は新装なった東京都美術館に戻り、1月18日から24日まで開催される。多数の出品を期待しています。



会場を埋めた一般部受賞者の皆さん



ご家族も参列・教育部受賞者の皆さん



赤平泰処会長による一般部賞状授与



一般部審査長高橋珠翠先生による講評



荒木大樹理事長による教育部賞状授与



教育部審査長根本泰邱先生による講評



懇親会にて“乾杯”





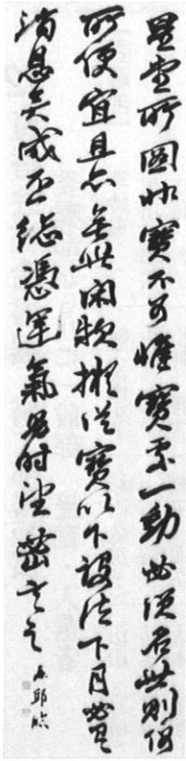
会長 赤平泰処



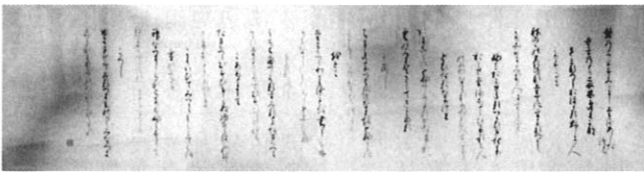
理事長 荒木大樹



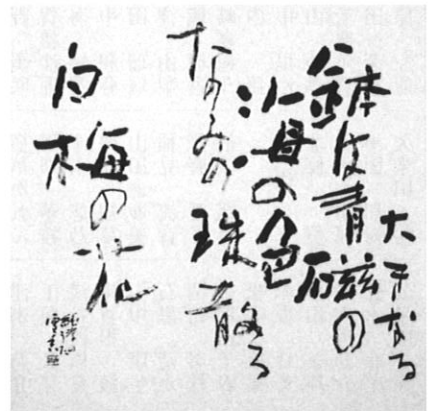
副理事長 松本宜響



教育部審査長 根本泰邸



一般部審査長 高橋 珠翠



五野雪香



西郷梅白

# '12 貞香会総合書展 第二部書範展

委嘱部ならびに一般部 受賞・入選者

## 【委嘱部】

準特選

市川 賀雪	黒川 和代	阿久津由紀子	杉山久美子	山田 真晴
小林 節子	江藤 啓子	生田 郁子	大石 碧堂	清水 泉敬
野村 翠苑	楡木 寛子	小野 勝信	豊田 瑞空	大木 泉順
柳原 桃心	岡田 和子	伊能 江樹	室井 貴子	大木 友美
松井 繁	塩野 洋子	及川 佩玉	上原さおり	市原 明美
常陸 民生	今泉伊代子	山中あつみ	大沼 圭真	田村 永春
	長尾 貫清	藤原 優子	入選	山本智恵子
	沼澤 幸子	小池伊都子	塩味 靖恵	山口佐和子
	池田 翠雨	伊藤 栄	野口美代子	森山 朝香
	荒井 谿水	井出 惇子	吉澤 光子	前原 真衣
	渡辺 溪嵐	松浦 芳春	稲見 尹弘	米井 英子
	世継 仁美	佐藤 功子	高塚 孝吉	田窪 哲朗
	大芦 義男	久保木喜峰	駒場 久遠	西山 香蘭
	大崎 きよ	赤橋 雅静	の場喜代子	栗山 智子
	根本 泰子	加藤 仲幸	我満望菜美	鳥海 清子
	雑賀 誠芳	戸田 昭子	蝦名 絵理	吉田まゆみ
	五喜田幽石	成田美和子	遠藤 清泉	松下 彩虹
	戸田 順子	越川 淑泉	藤崎 竹情	篠原 翠峰
	北井 康子	伊藤 泉映	菅谷 虹泉	五十嵐千佳子
	越部 翠香	大川 希望	浜田 碧空	山井 御代
	吉田 和蓉	金杉 瑞希	櫻井 紅霞	渡辺 有美
	渡辺 嘉宏	根布谷順子	大木 幽翠	湯川佳津代
	渡辺 萌苑	国貞 史絵	久保木江郎	室井 大輔
	長谷川匡秀	大田 信子	八幡 憲典	大村 岑松
	川名 孝江	関口 恵子	林 玲子	大石 真子
	秀作	小林 美子	宮崎 妙	漆原 愛美
	田辺 由美	高野 陽菜	小野三子	高橋美智子
	田辺 典子	根津 宏子	佐藤 由紀	加藤 尚子
	小林 純子	恩田 澄光	加藤富美江	鈴木あすか
	杉山 正巳	古賀 一善	香取 芳江	川名千鶴子
	榎木 良裕	藤田 慶子	植木咲也子	杉山 利子

# '12 貞香会総合書展 第二部書範展 教育部受賞者

貞香会奨励賞

特別賞

大海 暢克	宇敷真由香	水野 真歩	神保 里紗	玉熊光太郎
佐藤 大樹	吉野 浩平	尾畑 翼紗	山田 恭史	牧野 瑠美
小野塚 悠	小池 舞奈	我満奈々美	三浦 栞	鈴木 良美
	若林 結佳	渡邊 陽奈	白石菜々子	山田 涼介
	田鹿咲太郎	園部 龍真	石橋 夏帆	秋本 将吾
	渡辺 悠太	仙波 亜弥	山下 晴輝	小野 融甫
	阿部 美咲	山崎望々春	中山 琴美	玉熊 純
	佐藤 花奈	浅谷 颯来	安達 萌花	川本 桃子
	名古屋杏奈	安達 美空	宇敷 優花	高久立樹也
	上野 沙織	秀作	山田 彩乃	南雲 直樹
	大島 恋	大島 寧々	佐久間 葵	五十嵐太郎
	高久 愛美	宇賀持芽衣	鎌野 真美	大角 延蔵
	園部江梨子	川本 泰雅	松本 紘政	秋本 夏実
	水野 貴帆	川本 凌雅	鈴木 彩楓	田中つばき
	長谷川紗希	傳田 遥香	村上 碧	青木 真珠
	松浦 凌	八木 一匡	松浦 芽生	鈴木 陽祐
	和田 賢祐	高野 創	山上 開	関口 純太
	根本 真弘	池田百合香	大澤 千湖	関口由季乃
	小口 楓	笹島妃菜子	小池 美玲	堀井 雅
	川上 詩織	橋本 拓季	田鹿 祥平	亀山 芳
	木下 恭子	我満 綾華	植草かれん	柿末 琴美
	猪瀬 楓	小池 寧々	村田 佳穂	津末一乃介
	伊藤 茜	村田和勇樹	田畑 華綾	工藤 久芽
	鈴木あかり	宇賀持沙耶	津末 悠乃	浅谷沙依良
	本多ななみ	大海 知磨	津末 悠乃	津賀根 綾
	熊谷 環	田中 和弥	間諷 知草	山中 康生
	広瀬はるか	矢口 優海	山田あゆ美	石黒 清か
	竹田折音花	須藤 美咲	稲見 流音	関口 彰桂
	特選	上野 仲志	鎌野 愛子	久保田千春
	熊谷ひなた	田仲里緒菜	仙波 翔真	松本 玲果
	蓬田 悠里	池田光吏郎	佳作	赤坂 日菜
	上野 朱音	入江 華	北條 葵	村田 美瑛
	水上 珠来	仙波 貴光	大角 梨緒	津末 惇乃介
	野茎沙也加	齋藤 麗愛	平田 和樹	鈴木 春菜
	篠崎笹太郎	安達 結	久米田 萌	久米田 芽

## 貞香会だより

### ◇ 平成二十四年度 貞香会総会報告

平成二十四年度定期総会は、二月十三日(土)午後四時から貞香会事務所において開催されました。

総会には赤平泰処会長、荒木大樹理事長をはじめ、顧問の中村素岳先生・参与の中谷春径先生、若井香樹先生のご臨席のもと、二十三名の会員の出席をもって開催となりました。

総会は、加茂泰玄理事の司会で進められ、開会のことばを松本宜馨副理事長が行い、続いて挨拶に立った赤平泰処会長は出席者に謝意を表した後、昨年の東日本大震災での被災者に哀悼の意を表しつつ、直前に迫った東方展、貞香書展、毎日展について前向きにとらえ、書を通して仲間の活力が盛り上がることを期待しております。また本日の議案についてはよくご検討いただき、速やかな進行を希望していますとの旨を述べられました。

次に委任状の確認を司会の加茂先生より報告があり、会員数二〇二名の内、総会出席者二十三名、委任状提出者一四三名、合計一六六名になり、総会が成立いたしますと報告がありました。議長には大野宜白副理事長が選任され議事に入りました。

平成二十三年度事業報告並びに平成二十三年度会計報告が中村青藍事務局長より、会計監査報告が中村東泉監事からあり一括承認されました。

次に平成二十四年度事業計画(案)並びに同予算書(案)がそれぞれ中村青藍事務局長より提案され一括承認されました。その他の議事特になく、大野議長が拍手の中、議事が終了したことを宣しました。

最後に松本宜馨副理事長の閉会の言葉で総会が無事終了いたしました。

例年の総会は貞香会総合書展の会期中に行われてきましたが、今回は会期の都合上、会場を貞香会事務所に移しての開催となりました。来年は貞香会総合書展の会場がリニューアル後の東京都

美術館に戻ります。会期は一月十八日(金)～二十四日(木)を予定しております。よって次回の総会はこの会期中の開催を検討いたしましたと思いますので、多くの会員の皆さまが出席してくださることを心よりお待ち申し上げます。  
(中村青藍 記)

総会出席者名

中村素岳 中谷春径 若井香樹 赤平泰処 荒木大樹 大野宜白  
奥山泰嶺 加茂泰玄 松本宜馨 今井泰章 岩田映洞 後上菁華  
杉戸泰岳 高橋珠翠 中村青藍 中村大如 中村東泉 根本泰郎  
山根紅樹 飯野彩心 末永江春 石山心茜 中野美由貴

### ◇ 錬成会開催

貞香会では去る2月21日・22日の両日、鶯毛堂の錬成会場を借りて、東方展・毎日展・貞香書展に向けた錬成会が行われた。指導には中村素岳、赤平泰処、荒木大樹、中村青藍の四先生が当たられ、二日間で延べ50名程が参加した。講師は参加者の求めに応じて、手本の揮毫や批評など精力的に動き回っていた。「痛んだ筆では良い線は出せない」「手首を柔らかく回転させるように」などのアドバイスに参加者は熱心に耳を傾けていた。それにしても講師の先生方の筆使いは、それぞれに個性があり四者四様だ。作品作りに集中するのもよいが、時には筆を休めて先生方の筆さばきをじっくり観察するのも大いに勉強になると思うのだが。



## 第55回 東方書展審査を終えて

中村素岳

第55回東方書展が四月一日より開催した。改装のため二年間休館の東京都美術館での久々の開催となった。各室入口壁は濃黄に、東方書展表示板は赤地と華やかな色彩、展示壁面は極めて白に近い色と明るい照明、床は焦茶のカーパーツで敷きつめられ、足に負担もなく快適な鑑賞ができ、色彩や墨の色がよく映える美術館です。一月の総合書展がたのしみです。館外は満開の桜が歓迎していました。展示スペースの関係から同人作品は前年のサンシャイン展サイズとなり寂しくなった感は否めない。

出品点数は一三二二点、公募六六八点、他は準同人、同人、功労者、名誉同人です。漢字部は増加したが、かな部作品は五九%を占めている。貞香会は公募三四点を含め九七点の出品。

鑑別は三月二六日に、審査は翌二七日に、鑑別で選別された八〇点を対象に投票、入選作品は三行、四行の行書作品が大半を占め、練度の高さ、流れるようなりズム、躍動、迫力、訴える力など一歩進んだ構成の作が多い。貞香会の隷書作品は少ないが異彩を放っていたが、またあと一歩と涙を呑んだ作も少なくない。出品者各位の努力により別表の如く多大の成果を得ることも出来ました。

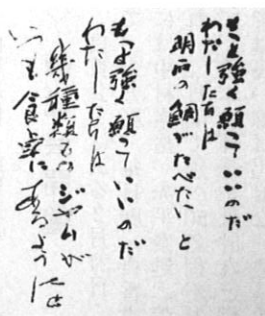
師の書、また古典を学び、その線質やリズムを生かし、更に自己形成の書の高い目標を持ち一作一作に努力を重ねること。まずは書くことです。東方書展は恩師故素堂先生が書芸向上の場として指導にも力を籠め、自ら傑作、力作を発表しつづけた展覧会です。奮って出品、チャレンジをしてください。

特別賞 同人推挙 大屋泰穹

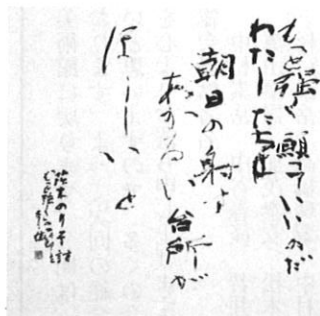


同人推挙 光田秀穂

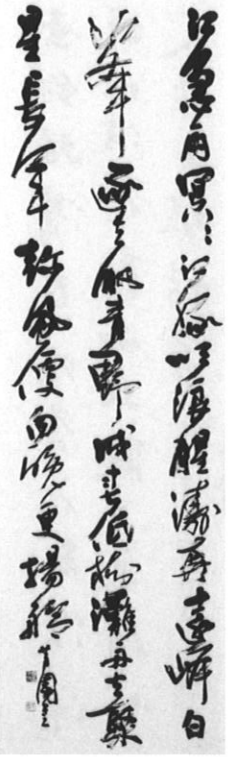
赤平泰処先生、貞香会の諸先生、西蓮の書縁で繋がる先輩方や仲間たちへ、「ありがとうございます。再び巡ってきたオリンピッククイヤー。四年前、国立新美術館には「精進無滅」のエネルギーが掲げられた。二児のパパになり、少し軟らかくなったと周囲に揶揄されるこの頃、なぜかあの夏的情景が、熱を帯びて私の現在に確実存在している。



この度の受賞、本当に有難うございます。思いもよらない事でしたので大変驚き、身の引き締まる思いです。今年、恩師中濱碩堂先生の没後九年目を迎えました。この受賞を報告出来ず事、心より嬉しく思います。同時にこの間、若井香樹先生、平林大舒先生を中心にかけております松黄会の皆様、貞香会の諸先生方のお陰と感謝とお礼を申し上げます。これからも精進してゆきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

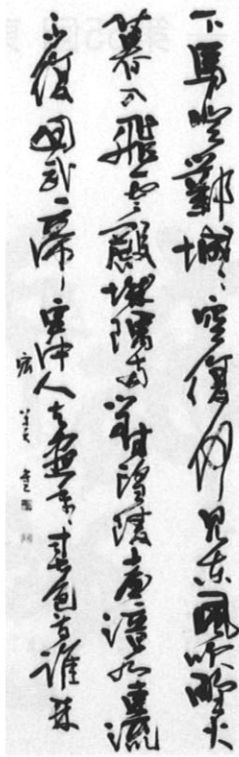


推薦 倉石芳園



この度は、東方書道展におきまして、「推薦」という、とても大きな賞を頂き、驚きと共に、大変嬉しく思っております。中村素岳先生、汀華先生の元で、書道を習い始めて三十余年になりますが、ひとつの事を同じ所で、これだけ長く続けてこられたのも、諸先生方のご指導があったからと深く感謝しております。ありがとうございます。これからも、自分なりに頑張っていきたいと思っておりますのでご指導よろしくお願い致します。

特選 岩崎宏美



特選 佐野珠雪



### 第55回 東方書展 入賞・入選者

- ◆ 特別賞・同人推挙 大屋泰尊
- ◆ 同人推挙 光田秀穂
- ◆ 推薦 倉石芳園
- ◆ 特選 岩崎宏美 佐野珠雪
- ◆ 褒状 池田詠香 稲田祥英 岩田映洞 下川翠雨
- 中田翠苑 平澤大廣 福田聡美 山口和希子
- 山崎香彩
- ◆ 入選 葭原宥全 板橋一風 今左賀丈彦 梅津成美
- 江原覺堂 大島京子 大塚秀哉 小野 優
- 久保田清壺 関口恵子 高橋久美子 立花香琳
- 富田青軒 富田 希 中島沙紀 中野美由貴
- 永野紫水 菱沼星径 福井藍水 松村窓紅
- 松本悠里 世継仁美

### 第五十五回 東方書展

- ◇ 会期 平成二十四年四月一日(日)～六日(金)
- ◇ 会場 リニューアルオープン東京都美術館(上野公園内)
- ◇ 主催 東方書道院
- ◇ 書類搬入 三月十六日(金) 午前十時～(東京文化会館を予定)
- ◇ 当会審査員 第一部 中村素岳、高橋珠翠、岡部賀苑、鈴木蓮径 (敬称略)
- 第二部 加茂泰玄
- ◇ 受賞式 四月五日(木) 午後二時～(都美術館「講堂」)
- ◇ 懇親会 四月五日(木) 午後四時半～(都美術館「食堂」の予定)

### 洗碑会

- ◇ 日時 五月二日(木) 午後四時半
- ◇ 会場 小石川・伝通院 中村素堂先生記念碑前
- ※ 参加無料



— 第55回 東方書道展 —

〈審査員作品〉

寬到筆隨

岡部 賀苑

中村素岳

中村 素岳

蚤釣緑灣春、深杏花亂潭清  
 疑似淡荷動、如魚敵日暮待情  
 人龍舟緑楊岸

鈴木蓮徑

忘夏劫

加茂泰玄

天竺鵝... 補... 飛... 錫... 作... 春... 遊... 漢... 河...  
 渭... 岐... 鳥... 啼... 或... 伴... 僧... 侶... 徒... 復... 振... 友... 人...  
 仙... 涯... 何... 所... 似... 汎... 彼... 山... 輕... 舟... 且... 暮... 色... 村... 故... 年... 二...

高橋珠翠

第四十七回 貞香書展

- ◇ 会 期…平成二十四年六月二十七日(水)～七月九日(月)
- ◇ 会 場…六本木・国立新美術館三階3A
- ◇ 作品規格寸法 役員、公募とも前回展と同じ
- ◇ 役員規格サイズ… 準同人以上は三十六平方尺以内、鑑別会員は二十四平方尺以内。
- ◇ 公募の規格サイズ… 第一部は十二平方尺以内、第二部は九平方尺以内。
- ◇ 出品料… 役員、公募とも前回展と同じ。
- ◇ 書類搬入… 六月四日(月) 午前十時～貞香会事務所にて受付。
- ◇ 講演会… 六月三十日(土) 午前十時半～十二時(館内「講堂」)
- ◇ 授賞式と懇親会… 六月三十日(土)

## 第17回 洗碑会

秋田谷 岱 空

小雨の降る中、小石川・伝通院において、恒例の洗碑会が行なわれた。完成間近だった山門もようやく落成し、今までとはまた違った趣のある佇まいとなった。境内も震災前の落ち着きを取り戻しつつあるように思われる。

会には中村素堂先生のご親族、弟子、孫弟子にあたる方、大正大書研の学生など、所縁のある十九名が参加した。午後四時三十分、次第に則って開始され、参加者全員による菩薩願行文、般若心経のお唱え、そして会長の赤平泰処先生をはじめとした代表者による洗碑の儀へと続いた。最後は記念撮影で締めくけり、午後五時に散会となった。

会長挨拶の中で、赤平泰処先生が「碑は自分で洗うから、と中村



雨に光る中村素堂先生記念碑



全員で菩薩願行文、般若心経を唱える



傘をさしての記念撮影

素堂先生が我々を氣遣って雨を降らせたのではないのでしょうか。」と述べられたが、素堂先生へ思いを馳せているかのようであった。確かに碑は雨に濡れていたものの、普段は煩わしさを感じる桜の枝葉が、この日ばかりは碑の雨除けをしているようにも見えた。さながら、我々に合わせて傘をお持ちになった素堂先生が後ろから見守って下さっているようでもあった。

思えば、今年の七月で中村素堂先生が逝去されて早三十年の歳月が流れる。果たして自分は素堂先生が創設された貞香会の一員として、遺志を理解しているだろうか。また書を学ぶ者として、師の思いや会の歴史を基盤に据え、それを発展させた上で勉強ができているだろうか。僭越ながら、そんなことをふと考えてしまった。

兎にも角にも、次回以降多数の方々洗碑会へ参加され、資料や文献だけでは知り得ない中村素堂先生にまつわるお話が聞けることを願わずにはられない。

# 第47回 貞香書展

6月27日～7月9日  
国立新美術館 3A



伊藤滋先生の講演会

貞香書展は今年から毎日書道展直前のこの時期の開催となった。6月30日午前10時より館内講堂において東京学芸大学講師伊藤滋先生による「日本に貯蔵される名帖」と題する講演が開かれ、午後一時より授賞式、夕刻には会場を銀座「サンミタカマツ」に移して130名ほどを集めて懇親会が開かれ盛会となった。

7月5日には講堂において、赤平泰処、荒木大樹、大野宜白の3先生による席上揮毫会が開かれ、多数の見学者に混じって外国人の客も見学に訪れるなど大いに盛り上がった。又、東日本大震災の復興を祈念して、来場者による七夕の短冊揮毫会も行われ、色とりどりの作品が会場の笹に飾られた。



赤平泰処先生の席上揮毫



赤平会長から賞状を授与される林泰堂氏



荒木大樹先生の席上揮毫



授賞式の模様



大野宜白先生の席上揮毫



なごやかな雰囲気での懇親会



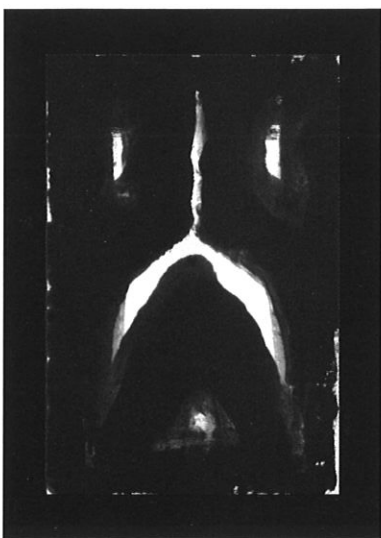
《選考委員・第一部審査員作品》



理事長 荒木大樹



副理事長 松本宜響



副理事長 大野宜白



第一部審査長 会長 赤平泰処



理事 山根紅樹

浮雲収渭水初照終菊地道連轉為官  
 橋渡曉務人恒金浦松香徑入曉光初射  
 漁川隱者巾首和菴 王滝洋行書

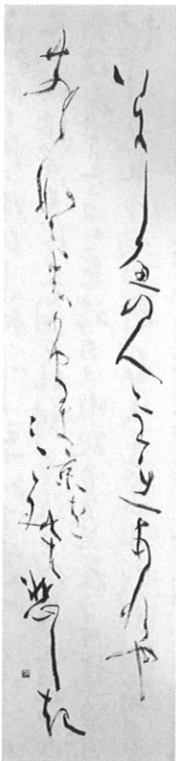
参与 八木舜堂



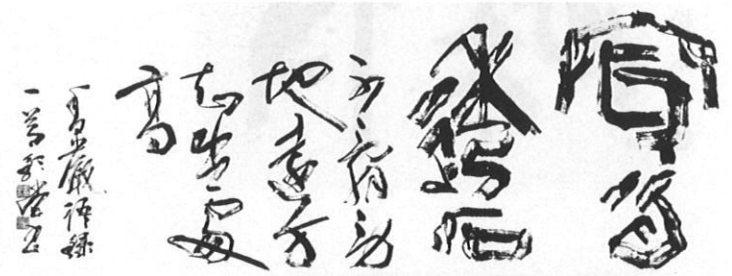
参与 室生大韻



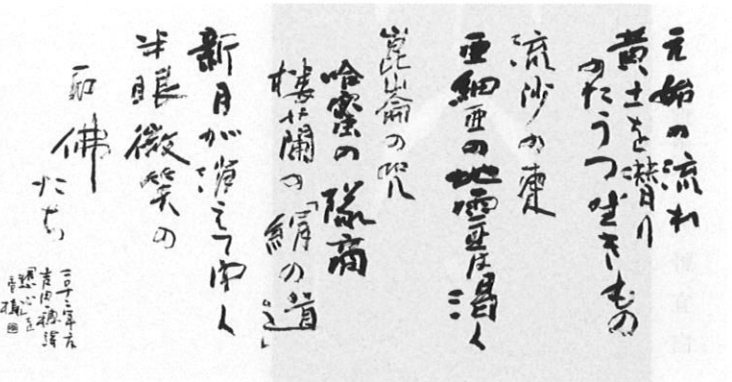
顧問 中村素岳



参与 中谷春徑



参与 畫間欽堂



参与 若井香樹

湖山院秋意  
直標如僧圖  
必似老龍  
身處

結草為庵  
遠松為伴  
長  
大邱吉

根本泰邱

不知香積寺  
數里入雲峯  
古木無人徑  
深山何處鐘  
泉聲咽危石  
日色冷青松  
薄暮空潭曲  
安禪制毒龍

長尾泰邨

雲鳥飛

白知燦燦

中村汀華

進の心也

白字大田

大田

飼江心也  
大田

理事 平林大舒

白暎半時時  
秋才無云  
日中大舟  
秋田谷

秋田谷 岱空

秋田谷  
日中大舟  
秋田谷

小峰紀州  
小峰紀州  
小峰紀州

小峰紀州

## 第四十七回 貞香書展審査所感

審査長 赤平泰処

今回から新美術館借館団体の日程等の見直しで、六月二十七日から七月九日までの会期となりました。例年より早くなりいろいろな面で心配されたが運営に携わる諸氏の努力によって順調に開催に漕ぎ着けたことに大いに感謝したいと思います。

総出品点数三三三点、昨年より三点の減少、第一部の一般、鑑別会員が多少増えて、第二部が少し減った。新しい出品者を増やすことと、従前からの出品者を継続させていくことが大切で、このことも役員、同人、審査員の責務と考えて会に参画することを切に願っています。

審査は六月二十一日(木)美術館地下審査室で行われた。一部二部合同での打合せ、全体会議の後、鑑別、審査、特別賞選考と進められた。

鑑別では審査対象作品を挙手で選び、審査では投票を行い、同点の時は再度行なって上位より入賞作品が決定された。

受賞した作品は素晴らしいものではあったが、例年に較べて全体的に少し力が落ちたような印象が残った。よく書き馴れてましまりのよい作、筆路が明解で字形に安定感のある作、一線一線がしっかりしていて筆力、筆勢がよく出た作が入賞の作となり評価された。これからは、行草は強い表現と流動感、全体構成、隸書は構築的で厚味のある深い線。仮名は線と字形、自然な趣。詩文書は漢字と仮名の調和と豊かな表現力。以上の要点を目標にして書作してみてください。

まずは師匠の作、古典の書にどれだけのめり込めるかです。あまり練習もせずに上手くなった人はいません。良い書を支えているのは内面的な強固な遺志です。これが磨かれた技術によって外面に出た時、書の美しい表現が生まれます。

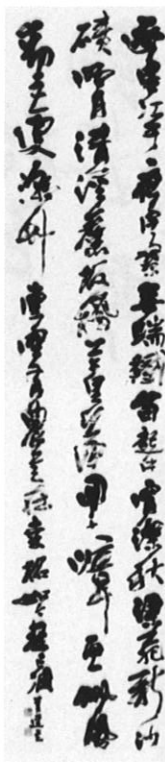
次の展覧会でまた、みなさんの作品と会えるのを楽しみにしております。

特別賞 同人推挙 林 泰堂



と切磋琢磨できる環境あつての受賞と思つており、そういったことにも感謝しております。また、受賞して終わりということではなく、これからが、大事だと思つておりますので、精進し、一層書に励んでいきたいと思ひます。

特別賞 同人推挙 川野芳 逕



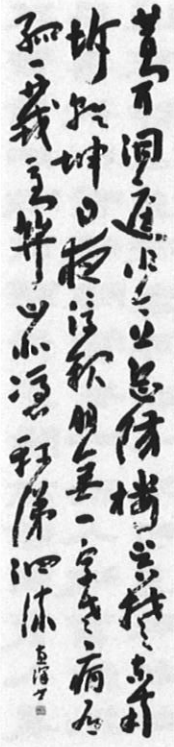
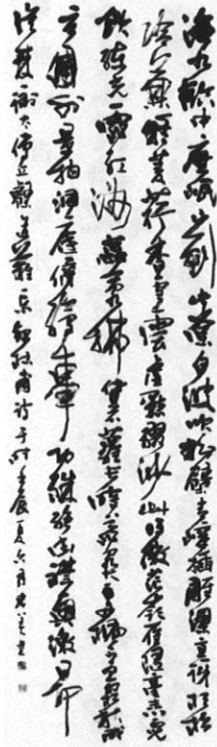
この度の受賞におきまして、師の赤平泰処先生をはじめ諸先生・先輩方に御礼申し上げます。そして、同期・先輩と年齢が近い人達



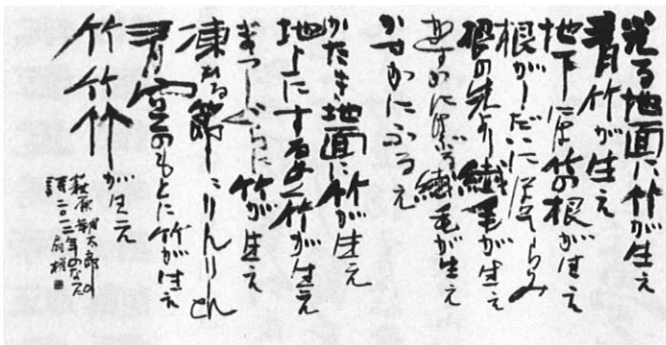
この度は、第47回貞香書展において特別賞を頂き、誠にありがとうございます。今回このような賞を頂いたのは、日頃御指導頂いている、中村素岳先生をはじめ、諸先生、諸先輩のおかげだと、多くの方々々に感謝申し上げます。授賞式での赤平先生のお言葉にありましたように、ここからがスタートと思ひ、今までもより一層努力していきたいと思ひます。今後ともよろしくご指導を賜りますようお願い致します。



第47回貞香書展におきまして推薦を受賞させていただきます大変恐縮しています。これも偏に永年にわたりご指導いただきました中村素岳先生はじめ貞香会の諸先生方そして書友仲間のお蔭と感謝し厚くお礼申し上げます。この受賞を励みに当り前に書けることの幸せに感謝し、「書も芸術」技術と感覚を磨くべく一層精進に努めてまいりますと思います。今後共、変らぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



毎日、忙がしい〜と口癖にしている中、書に向かう一時がとても心が落ちつく時間帯です。突然の電話でビックリしました。推薦と言う素晴らしい賞を頂き、ほんとうに驚きました。どうもありがとうございます。これも偏に室生先生の熱心なご指導のお陰で心から感謝申し上げます。これからも古典をもっともつと勉強してまいりたいと思いますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。



この度の受賞、本当に有難うございました。今回の作品選びでは大変悩みました。そんな時光田先生から故中濱碩堂先生のお手本を借りることが出来ました。すばらしく力強い作品、今の私に書く事が出来るかしらと、近くの竹やぶに行き、竹と語りどうぞ先生私に力を授けて下さいと念じ祈りました。天国から先生が励ましの手紙を送って下さったと感謝して居ります。若井香樹先生、松黄会の皆様・貞香会の諸先生方どうぞこれからもご指導の程宜しくお願い申し上げます。笑顔で本当にありがとうございました。



第一部 特選 福田聡美

飛舞黃阿嗷飛舞黃夕陽  
日喜欲狂曠懷隨帶雀冲融人披蒼縹緗  
近天都迷透凌虛鄉斯心不可道厥嶽白  
清洋恨未化為烏啼盡飛華黃

第一部 特選 藤井泉桜

竹運伴地蓮生此中  
此不在江平水外正法生嘉字梵  
春一法石不親六百生

第一部 特選 伊藤朱楊

好焚香炷護清宵  
暖三更燐雨靜水閑  
恰似箭程蓮記常誰知  
寵靈自裡關紅照畫人  
明朝

第一部 特選 菅谷虹泉

秋賦之旨

第一部 特選 長尾貫清

風勁自弓鳴將軍濺  
疾雲盡馬蹄輕忽遲  
柳營回看射鵰家千  
里綠雲平

第一部 特選 恩田澄光

江城地瘴毒針凡只育  
幽獨媿  
也知造物育深意瓦遣  
然富貴生天芥小清多  
豈蒼生再處此

第二部 特選 小木曾 礼

夢  
誰かに勝つと折れ  
夢と向き合え  
本望の強さに  
軽くなる  
ゴーンガオン

第二部 特選 伊澤 禮子

夏  
南谷  
伊澤 禮子

第一部 特選 江藤 啓子

秋夜而身更長竹屐地林風涼  
送、藉色有波、夕涼、幽、静、心、  
待、鹿、涼、望、上、秋、弦、幽、静、心、  
待、余、子、一、

第一部 特選 新倉 奈津子

青山横少郭、白水送東城、此地一為別、  
孤蓬遠逐、征鴻云、隨、意、落、日、故、人、  
情、揮、手、自、茲、去、蕭、蕭、班、馬、鳴、  
奈津子、

第一部 特選 山中 あつみ

兒童急走追黃蝶、飛  
入菜華無處尋、  
時、新、倉、奈、津、子、

第一部 特選 松野 澄水

美人自愛自西京、亦有筑紫花、  
前、後、無、意、志、氣、豪、海、客、子、其、志、  
亦、盡、聲、嘶、  
續、堂、上、層、樓、  
澄、水、

第二部 特選 志太 惠佳

室井 貴子、柳、色、苦、柳、日、底、  
石橋 泉映、多、多、多、多、多、多、  
荒井 籥水、能、美、之、心、也、  
志、太、

第四十七回 貞香書展入賞者

特別賞・同人推挙

林 泰堂 川野 芳逕

推薦 下川 翠雨 岩崎 宏美 内田 扇梢 伊藤 惠澤

公募第一部

特選 福田 聡美 藤井 泉核 伊藤 朱楊 菅谷 虹泉 長尾 貫清

準特選

恩田 澄光 梅津 成美 今古賀文彦 根本 柏暢 天方 昌和 佐藤 龍生

秀作

津田 雅代 廣田 教子 松田 彩虹 白石真樹子 小野 優

塚山 清峰 阿部 匠 松本 悠里 角田 清蓮 保坂 登志  
横張 正子 関根 熙雲 近藤 朗詠 宇井 葉子 小島みつ子  
山崎 晴抄 大島 京子 世継 仁美 大塚 秀哉 石川 一光  
中島 沙紀 五十嵐千佳子 渡辺 萌苑 池田 紀子 黒川 和代  
小林 節子 鈴木 柏琴 山本 すす 大石 碧堂 松井 繁  
山口和希子 堀越 紅蓼

公募第二部

特選

小木曾 礼 江藤 啓子 伊澤 禮子 新倉奈津子 山中あつみ

準特選

松野 澄水 志太 惠佳 工藤富美子 吉田 典子 川端 正廣 赤橋 雅静 湯川佳津代

秀作

室井 貴子 市原 明美 五喜田幽石 阿久津由紀子 大芦 義男

大木 秀佳 小国 貞優 豊田 瑞空 古川 峰子 高梨 峻玲

伊藤 泉映 宮川 米子 栗林 澄香 八角 涛佳 久保木喜峰

石橋 溪柳 及川 佩玉 根本 澄香 杉山久美子 相澤 理忠

伊藤 香風 向後 佳溪 森 佳鶴 塩味 靖恵 佐藤 融雪

# 第64回毎日書道展

本年度当番審査員 中村青藍先生



## 第六十四回毎日書道展審査所感

中村青藍

第六十四回毎日展がスタートした。今回展から会場は従来の国立美術館と共に改装新たな東京都美術館に戻った。

作品数は、昨年の東日本大震災の影響がまだ残るにもかかわらず、公募出品点数は三一、三〇七点。昨年比三〇一点の増である。毎日展の結集力の凄さを見た思いである。その中で当会の公募の出品点数は二一五点、全体から見れば僅かであるが、会員二、六五一名の中から会員賞というグランプリに輝いた二六名の中に鈴木蓮径先生がめでたく受賞されたことは大変喜ばしく名誉なことである。会として実に5年ぶりの受賞であった。漢字部公募出品は一三、二四六点、昨年より三七五点増えた。全体で見ても漢字部の割合は四二・三%と圧倒的な数の多さである。当会からはⅠ類に一四八点(U23の一六点含む)、Ⅱ類に六二点(同・九点含む)、近詩部五五点。計二一五点が出品した。(前年比三点減)

五月の鑑別審査はマクリ(表具なし)で行い50%入選が決定する。入選の基準点はⅠ類が十二点(U23は十五点)、Ⅱ類が七点(同・十点)。当会にとってはやや残念な結果で、漢字部一

般の入選率は四五・五%、U23と近詩部の入選率は共に40%と平均値を下回った。

しかし、漢字Ⅰ類の鑑別の審査は作品の良さだけでなく、無理せず堅実な作品でも高い評価を得ていた。たとえば連綿がなくとも多字数の構成で一字一字丁寧に書き上げた作品だ。努力も加味されたように感じた。逆にいえば、字数の少ない作(二八字)や、規定サイズを守らない作などは大変厳しい評価となった。漢字Ⅰ類の傾向としてよく言われることは行草作品は行間(タテ)の空間、隷書作品は字形を扁平にして字間(ヨコ)の空間

である。加えて課題、字数も考慮にいれる。例えば三行書きは五六字、四行書きは八十字を一つの基準にするとか、また経験の浅い方は五行書きにするとか、何か、工夫が必要と感じた。

六月の本審査は表装された形で行い、先の入選作品の中から特に優秀な作品(A入選)と会友の作品で入賞の決定がされた。当会では毎日賞に加地香泉さんが受賞、秀作賞に4名、佳作賞に5名、U23奨励賞に1名が入賞できた。

鑑別では入選狙いの作品が主流となるが、本審査では入賞狙いの作品が主流となる。入賞に対して強い意欲を持って書き込んだ作品ほど評価は高くなる。書き込むことにより安定感、高い練度、全体構成、運筆法、白と黒の調和、力強さ等が高まる。逆に少しでもぬるい作品は認めてもらえない。書き込んだ作品か否かで評価は分かれる。

最後に入選者百二十名の中に初入選の方が十一名いた。まためでたく十回入選した方は五名であった。

今年から五年間、貞香書展の開催は毎日展の審査日程と重なります。多くの先生方が毎日のように来場してくださるようになります。これを好機と捉え会員一同一層励み、貞香会の書風を理解していただけるように、全員で努力していきましよう。よろしくお願ひします。





この度は、栄えある毎日書道展会員賞を賜り、誠に有難うございました。私のような未熟な者がこのような名誉な賞を受賞できましたことは、身に余る思いでいっぱいです。これもひとえに赤平泰処先生のご指導の賜物と心より御礼申し上げます。また十年ぶりに錬成会に出席し、諸先生諸先輩のご指導を頂いたお陰と、厚く御礼申し上げます。今後、会員賞に恥じないよう研鑽を積んで参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。

毎日書道会 西村水穂氏評(毎日新聞)

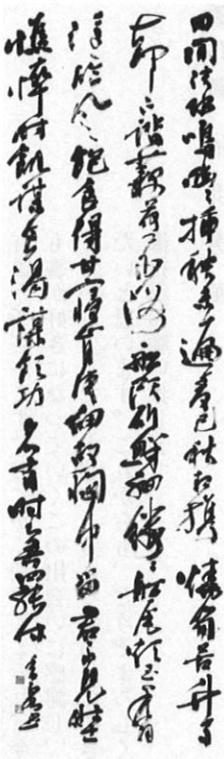
『気脈の流れにすがすがしさを感ずる。渴筆が全体の雰囲気を和らげ、格調高い作品に仕上がった。』

鈴木蓮徑さんプロフィール

昭和63年大正大学文学部哲学科卒

貞香会同人、東方書道院同人、西蓮会同人、毎日書道展会員

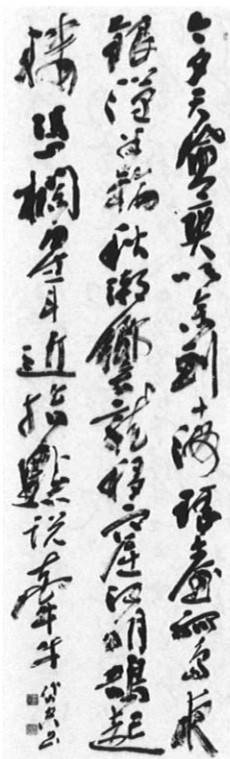
毎日賞 加地香泉



この度は毎日賞という大きな賞を頂き、唯々驚いております。単に好きなだけで書が続けている私がこのような賞を頂くことができました



秀作賞 秋田谷 岱空



のも、長い間見放すことなくご指導くださる赤平先生をはじめ、貞香会の諸先生方、西蓮会の皆様、家族のおかげと感謝しております。ありがとうございます。これからも、好きな書を長く続けて行けるように頑張つて行きたいと思ひます。ご指導、ご鞭撻よろしくお願ひします。



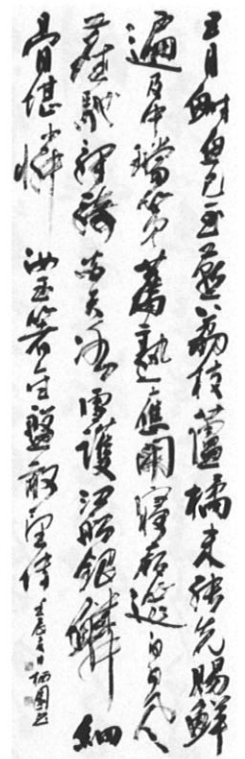
この度は、素晴らしい賞に選んでいただき、誠にありがとうございます。これも偏に、赤平泰処先生をはじめとする諸先生諸先輩方のご指導ご鞭撻の賜物と、深く感謝しております。今回は、「向上心」と「諦めない心」の大切さを痛感しました。この賞を励みとしつつも、謙虚に受け止め、書への姿勢を常に問い掛け、見詰め直したいと思っております。今後とも宜しくお願ひ致します。

秀作賞 後上 菁華





佳作賞 川島 栖園



佳作賞 林 澄翠



第六十四回 毎日書道展 出品者・受賞者・入選者

◆ 参与会員	赤平 泰旭 (本年度会員賞選考委員)	佐藤 中旭
◆ 評議員	荒木 大樹	中村 素岳 (本年度審査員)
◆ 審査会員	松本 宜馨	中村 青藍 (本年度審査員)
◆ 会員	飯野 彩心	五野 雪香
	岡部 賀苑	奥山 泰嶺
	杉戸 泰岳	鈴木 蓮径
	津田 貞巖	坪内 雪山
	中村 汀華	中村 根本
	光谷 素仙	八木 東泉
		若井 香樹
◆ 会 員 賞	鈴木 蓮径	若井 香樹
◆ 毎日賞	加地 香泉	後上 菁華
◆ 秀作賞	秋田谷 岱空	酒井 芳華
◆ 佳作賞	半田 桃香	林 泰堂
	山根 紅樹	川島 栖園
◆ U23奨励賞	稲田 祥英	

U23賞 稲田 祥英



入選 会友

U 23	松本 悠里	大塚 秀哉	舟木 絵美	和泉 芳華	清水 天悠	安田 大智	林 泰堂	玉熊 之瑞	佐藤 泰石	大橋 泰昂	市川 賀雪	村上 碧水	深井 藍水	武内 陽華	下川 翠雨	川嶋 芳岳	板橋 一風	渡辺 有美	竹田 華舟	石田 心茜	龜和 郁芳	永井 静軒	細田 香瑤	川島 栖園	海野 蒼秀	室井 汀翠	高木 素近	大塚 澄心	山根 紅樹	半田 桃香	笹山 汀華
	山口和希子	小野 祥英	稲田 祥英	中濱 瑞花	橋本 昭文	山崎 昭文	林 泰堂	富田 星希	佐野 珠雪	川田 幸仁	上野 泰德	山崎 香彩	福井 藍水	塚山 清峰	鈴木 芳草	倉石 芳園	伊藤 朱楊	富田 青軒	松下 彩虹	大石 碧堂	小竹 布美	中濱 瑞花	川北 澄月	鈴木 玲香	大屋 泰穹	秋田谷 岱空	坂井 哲鋒	沖野 素宮	飯野 柳山	三浦 清蓮	角田 看山
	中島 沙紀	阿部 匠	阿部 匠	橋本 鳳泉	横張 正子	横張 正子	林 泰堂	長尾 恵子	関口 康子	北井 覺堂	江原 昌和	天方 紫紅	松野 窓紅	野村 窓紅	清野 桂芳	小林 柳瑛	岩崎 宏美	吉田 和馨	松田 和馨	恩田 澄光	岩田 映洞 (篆刻)	林 映洞 (篆刻)	白根 如雪	中田 翠苑	石原 翠山	外山 翠光	後上 菁華	印田 素鶴	今井 香苑	浜瀬 碧水	二木 秀蔭
	福田 聡美	梅津 成美	梅津 成美	水沼 澄月 (近代詩文書)	海老原 紗華 (近代詩文書)	矢口 昌華	中野美由貴	立花 香琳	黒川 和代	大島 京子	池田 詠香	宮本 汀扇	樋口 泰仙	高橋久美子	澤田 桐光	釜形 素卓	岩崎 蒼秀	渡辺 蒼秀	渡辺 蒼秀	恩田 翠峰	岩田 映洞 (篆刻)	林 映洞 (篆刻)	白根 如雪	中田 翠苑	石原 翠山	外山 翠光	後上 菁華	印田 素鶴	今井 香苑	外川 静古	

# 鈴木蓮徑さん 毎日書道展会員賞受賞

## 祝賀会開催

貞香会では十月十三日、銀座サンニ高松七丁目店において、「鈴木蓮徑さん毎日書道展会員賞受賞祝賀会」を開催しました。毎日書道会からは糸賀靖夫専務理事をはじめ招待者を含め約八十名の出席のもと盛会な開催となりました。

祝賀会は、奥山泰嶺さんと飯野彩心さんの司会で進められ、開会の言葉を荒木大樹理事長が行い、続いて主催者挨拶にたった赤平泰処会長は出席者に謝意を表した後、鈴木蓮徑さんの「人柄」と「書」について話されました。

来賓からは、毎日書道会糸賀靖夫専務理事と五禾書房麻生泰久編集長にご挨拶を頂いた後、毎日新聞社堀内宏明事業本部長の乾杯で、祝賀会は和やかにそして楽しく進行了ました。

企画も多彩で、鈴木蓮徑さんの幼少時代から現在までの貴重な映像が流れ、小学五年生の時、書道部門で栃木県知事賞を受賞、一方、高校時代は剣道を修練し、栃木県大会で優勝するほどの腕前と紹介がありました。大学からは書の道に進み、今回、毎日書道展会員賞を受賞するといった、まさに「文武両道」の達人と称されました。

特別企画として鈴木蓮徑さんのお弟子さんである中学生二人による



仲間から祝福を受ける鈴木さん（左）



師匠の赤平泰処先生と

ピアノの演奏があり、澄んだ音色に心を癒された方も多かったかと思えます。また、突然剣道の防具を身にまとった若手の登場で、鈴木蓮徑さんも竹刀を握り、お互いに剣を交えるなど、会場内は感動と笑い声一杯となりました。

鈴木蓮徑さんからは、『赤平泰処会長に師事して二十八年。時には厳しく、時には熱心にご指導いただきました。赤平泰処会長に出会わなければ、今の自分はいなかったし、今回の受賞もありませんでした。一方、こうやって書道が続けられるのも、家族みんなの支えがあったからこそ。』と、感謝の気持ちが伝えられました。

中村青監事務局長による閉会の挨拶により祝賀会の中締めとなりましたが、貞香会の歴史に新たな一ページが刻まれ、今後ますます書作に精進し、更なる飛躍した作品が期待されることを感じる祝賀会でした。

（記 海野蒼秀）

# 二〇一二年「現代日本の書代表作家パリ展」

会期 2012年3月14日(水)～5月14日(月)  
 会場 国立ギメ東洋美術館(フランス・パリ市)  
 主催 国立ギメ東洋美術館、財団法人毎日書道会  
 共催 毎日新聞社  
 後援 在フランス日本国大使館  
 出品作品 合計41点  
 毎日書道展物故代表作品、  
 毎日書道会役員作品、  
 63回展文部科学大臣賞受賞作品

三月十四日から五月十四日まで、フランス・パリの国立ギメ東洋美術館にて「2012現代日本の書代表作家パリ展」が開催されている。この度、赤平泰処先生が日本の代表作家四十一名(物故作家五名含)に選ばれ、作品が展示されている。当展はギメ東洋美術館の招請により、毎日書道会との主催で実現。

三月十三日の開幕式には、同館のオリビエ・ドゥ・ベルノン館長をはじめ、日本側は、監修者の島谷弘幸・東京国立博物館副館長、朝比奈豊・毎日新聞社社長らが出席し、報道関係者も列を並べた。

そして、オープニングレセプションが展示会場にて華やかに行われ、代表作家六名による席上揮毫や書・刻字などが体験できるワークショップなどが実施され、赤平先生は篆書体を多くのフランス市民の前で披露した。揮毫後、先生に、書かれた文字や文の意味について、書家は日々どういう生活をしているのかなどの質問があった。また、揮毫の合間にパリ警察音楽隊により日本民謡などの生演奏が行われて盛り上がり、参観者も一体となって友好の輪が広がった。

フランスは「芸術の国」と言っても過言ではない。芸術・文化にかける国費は日本と比べものにならないという。それほど芸術に対する意識が高く、書に対する見る目も生半可なものではないであろう。そうした中、今回の展覧会で「現代日本の書」はフランスに大きな反響と存在感をもたら

した。四十一名の代表作家の作品は、ギメ東洋美術館に寄贈される。来年の秋は、代表作家百名による、2013パリ展が開催される。日本の芸術文化がますます欧州に広まる好機である。(S)



赤平先生による席上揮毫



赤平先生の出品作品

## 第六十四回 毎日書道展《東京展》

◇会期：平成二十四年七月十一日(水)～八月五日(日)  
 ◇主催：毎日新聞社・(財)毎日書道会  
 ◇東京展「国立新美術館」

前期展Ⅰ期 七月十一日(水)～七月十六日(月)  
 前期展Ⅱ期 七月十八日(水)～七月二十三日(月)  
 後期展Ⅰ期 七月二十五日(水)～七月三十日(月)  
 後期展Ⅱ期 八月一日(水)～八月五日(月)  
 前期展Ⅱかな、近代詩文書、前衛書部門  
 後期展Ⅱ漢字、大字書、篆刻、刻字部門  
 「東京都美術館」七月十六日(月)～二十三日(月)

◇表彰式：七月二十二日(日)十三時～ ザ・プリンスタワー東京



西蓮会 新鋭書展

平成24年2月17日～20日  
於 銀座アートスペース

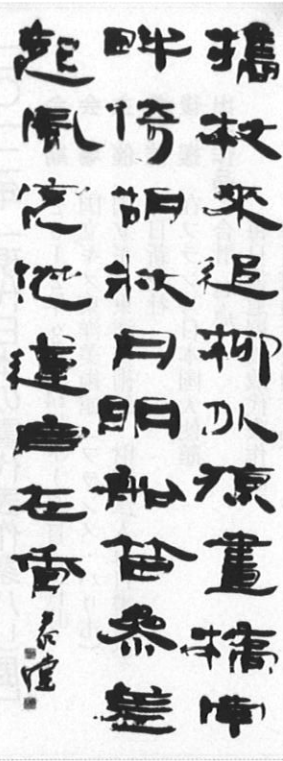
貞香会会長赤平泰処先生主宰の西蓮会の20代若手有志11名がグループ展を開いた。赤平先生の賛助作品と11名が多様な作品20点を出品し、若いエネルギーにあふれて盛会となった。



賛助出品 赤平泰処先生



大屋泰穹



林泰堂

醒(すみよい)展

=金子卓義を偲んで= 一期一会

7月21日～29日  
於 ロイヤルサロン

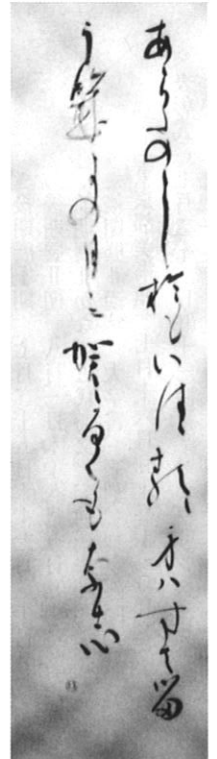
急逝した金子卓義氏を偲んで、親しかった書家18名で開催。同じ時期に向かいの和光ホールで「金子卓義の書」展が開かれた。



赤平泰処先生



赤平泰処先生

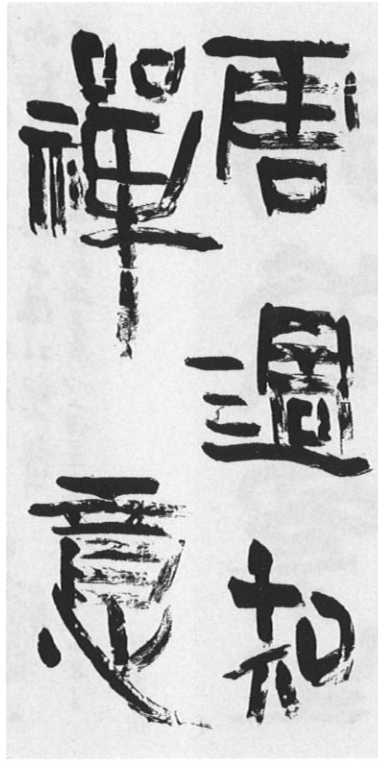


名倉蓮音

# 第34回東天会書展

8月6日～11日  
於 東京銀座・文藝春秋画廊

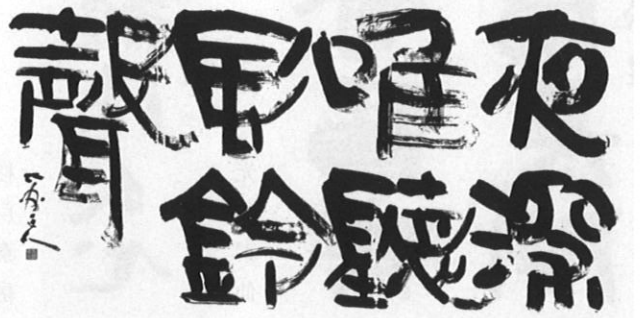
貞香会参与の室生大韻先生の主宰する東天会社中展が、初めて銀座で開かれ、室生先生の5点をはじめ、10名が29点を出品した。猛暑にもかかわらず連日參觀者が多数おとずれ、盛会となった。



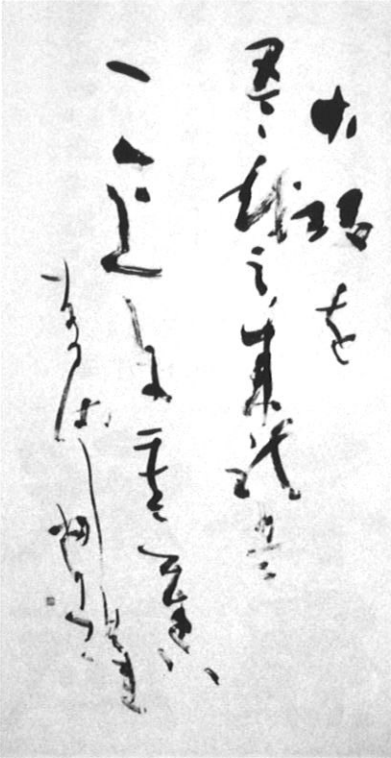
室生大韻



中村東泉



小峰紀州



真下良祐

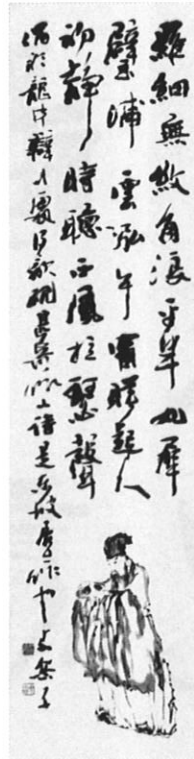
# 第43回 墨光書展

一般部 10月10日～14日  
 春日部市民文化会館  
 教育部 10月6日～8日  
 アクシス春日部

貞香会顧問の中村素岳先生主宰の墨光会社中展。

出品は教育部が58点、一般が主宰の2点を含めて114点。

好天に恵まれ、多数の市民がおとずれ盛会となった。



中村素岳



中村青藍



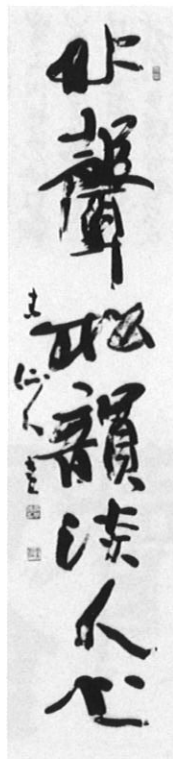
後上菁華



中村汀華



杉戸泰岳



光谷素仙



岡部賀苑



第26回 西蓮会書展

10月12日～16日  
銀座かねまつホール

貞香会会長赤平泰処先生が主宰する西蓮会社中展。出品は会長の2点を含めて、68名69点。作品にそれぞれがコメントを付けるのは西蓮会の伝統。作品を鑑賞しながら読めば、また楽しい。



赤平泰処



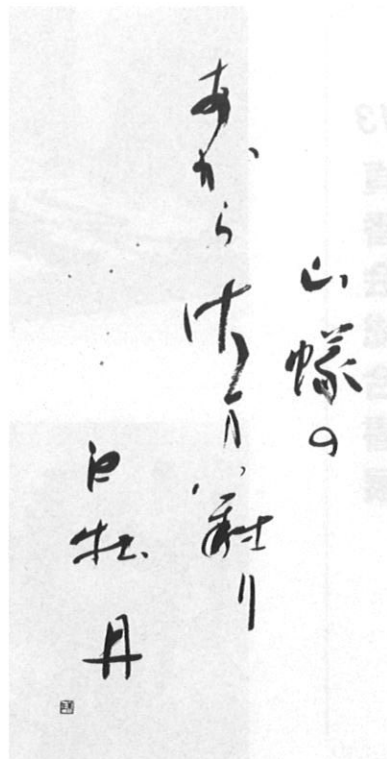
柏木南城



加茂泰玄



鈴木蓮徑



高橋珠翠



今井泰篁

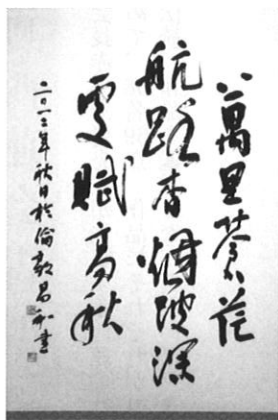


# 青山書道展

—創設17周年記念—

11月22日～25日  
銀座・かねまつホール

本誌支部の青山書道教室の展覧会が開かれた。出品は会員がそれぞれの持ち味を出した46点と、賛助出品として赤平先生2点、講師陣の加茂泰玄、高橋珠翠、今井泰篁、飯野彩心の各先生が出品された。



天方昌和



齊藤純子



関口恵子

## ■西郷梅白先生パフォーマンス披露

去る8月26日、さいたま市大久保東公民館において、本誌支部長の西郷梅白先生が、『筆モップ』を使用してのパフォーマンス書道を披露された(写真上)。又来場者も『スポンジ筆』を使用して大きな水書き紙に、おもいおもいの字を書いて楽しんだ。(写真下)。詳しくはホームページ<http://paihaku.com/>。



## '13 貞香会総合書展

会期 平成25年1月19日(土)～24日(木)

1月21日(月)は休館日

会場 東京上野公園・東京都美術館ロビー階第一棟

授賞式 1月20日(日) 教育部 11時半～12時半

一般部 16時～17時 館内講堂

## 25年度貞香会関連

### 展覧会および行事予定

#### ◎第56回 東方書展

- ◇ 会期 平成25年4月1日(月)～6日(土)
- ◇ 会場 東京都美術館

#### ◎洗碑会

- ◇ 日時 平成25年5月2日(木)  
午後5時より(集合4時半)
  - ◇ 会場 文京区小石川・伝通院
- ※参加費無料

#### ◎第48回 貞香書展

- ◇ 会期 平成25年6月26日(木)～7月8日(月)
- ◇ 会場 六本木・国立新美術館3A

#### ◎第65回 毎日書道展

- ◇ 会期 (通期)  
平成25年7月10日(木)～8月4日(月)
  - 前期展 (漢字、大字書、篆刻、刻字)  
7月10日(木)～22日(月)
  - 後期展 (かな、近代詩文書、前衛書)  
7月24日(木)～8月4日(月)
- ※前・後期展とも、掛けかえあり。  
一部、東京都美術館でも展示される。

平成二十四年度 **会報** (第二号)

発行日 平成二十五年七月十五日(月)

編集・発行 貞香会

印刷・製本 富寿印刷

東京都文京区大塚三―三六―九  
〇三(三九四四)―一四一